

「加西市未来の学校構想」に係る教職員意見交換会 発表記録

令和4年1月18日（火）

加西市民会館 小ホール

A班（小学校教諭5人）

素案に対する課題

- ・素案の小小連携ではたくさんの課題がある。
- ・児童が普段生活するときは顔を合わせて交流する方が望ましい。
- ・移動にも時間がかかる。
- ・ICTの利用も回線状態の物理的な問題もある。
- ・教師の負担も小小連携をすればするほど、打ち合わせの時間とか、ただでさえアップアップのところ、新しい取組が入るたびに、現実的には持続可能ではなくなっている。

解決できること/できないこと/手立て

- ・課題は他にもいろいろあるが、それをどう前向きに考えるべきか、みんなで話あった。
- ・回線は常時ネットワーク接続して、いつでも連携できる環境をつくる。
- ・学園構想についても学園単位でクラス編制をする。
- ・移動手段のバス代の予算を多く確保する。
- ・教師の負担軽減では、小小連携のコーディネーターを専任として配置する。
- ・校務分掌を学園内で一本化する。例えば生徒指導担当は4校を兼ねる。
- ・校務分掌を一本化すると、大きな学校のように一人一人の仕事の数が減る。
- ・学園ごとに行事を一つにする。
- ・常に一つの学年、クラスにするなどして学園構想をすればいいのではないか。
- ・考えれば考えるほど、これはもう統廃合していることと同じことだねという話になった。
- ・統合をいかに早く進めていくか、これをみんなで一生懸命考えていけばいい
- ・統合に8年かかるなら、それを5年や3年でやる工夫はないか、みんなでアイデア出し合って考える。それがよいということで班の話がまとまった。

B班（小学校教諭5人）

現状課題

- ・子どもの課題は、小規模校のことである。
- ・人間関係がなかなか広がっていかない。そこで一度つまずいてしまうと、なかなか抜け出しにくい。
- ・狭い人間関係の中でしか生活していないので、ソーシャルスキルも育ちにくい。
- ・多様な価値観に触れる機会も少ない。
- ・教育活動においても、あの子が発表して言うと、正解かなと思ってしまう。人の意見に喰ってかかることによって授業が深まったり、広がったりすることがしにくい。
- ・人数の問題で掃除分担とか運動会の役割とか人を配置するのが困難。
- ・教師の方は人手不足で一人一人の業務量が多すぎる。
- ・教師の人間関係も小規模校になってくると、もっともっと自分自身は教わりたいのに、「もうあなたは先輩なんだから、下の後輩を育てあげてね」と言われるポジションに立たされ、十分に自分のスキルアップができない。

解決できること/できないこと/手立て

- ・小小連携でどう解決すればよいか考えてみたが、小小連携では解決できないという結論になった。それでもできる工夫はないかと考えた。
- ・小小連携するには事前の準備も必要。ICT 使って連携するのであれば、その準備に携わってくれる専門スタッフがいる。
- ・相手校との連絡調整を肩代わりしてやってくれる教員、ICT のスキルに長けた教員の常駐を望みたい。
- ・今より人をたくさん配置するしか工夫はない。

C班（小学校教諭6人）

素案に対する課題

- ・素案を進めても現実的には難しいと思える。
- ・私たちの負担がどんどん増えてきて、現実的ではないという否定的な意見がたくさん出た。それを解決することはすごく難しい。

解決できること/できないこと/手立て

- ・子どものことを考えていくと、こういった交流というのは大事だという意見がどんどん出てきた。
- ・人を増やすということはできなければ、この課題を解決することは難しい。
- ・移動の手段に時間がかかったりしてしまうので、バスの運転手を配置する
- ・教師を増やすとか、交流のコーディネーターをつけて、いろいろやりとりするとか、そうすることでできれば何か解決できそうなこと、わくわくしそうなことが見えてきそう。
- ・いろんな課題があるが、合同で行事をしたり、合同で単元を組んで授業をしたり、合同で体験学習をしたり、人がたくさんいれば、それで子どもたちもいろいろな力がついたり、わくわくするようなことができる。
- ・移動の手段に時間がかかるとすれば、一日交流をする日として過ごすのはどうか
同じ建物や同じ教室で一日過ごす。例えば低学年はA校で交流していく。そして中学年は相手先のB校に交流しに行く。それでC校に高学年が交流しに行く。その日は交流する日ということで、決めておいてローテーションしていけばどうか。
- ・新しい建物を造るのは理想だが、それが無理なら、今ある学校のところでそれぞれ交流ができる。
- ・コーディネーターとか校務分掌なども、例えば自然学校はA校が担当する。B校は運動会を担当する。C校は環境体験学習を担当するというように分けていったらどうか。
- ・その前後でのやり取りではICTをうまく活用していく。
- ・今は学習のためにクロームブックを使っているが、子ども同士や教師同士のやり取りやコミュニケーション能力を高めていく方向にもどんどん自由に使えるようになってほしい。
- ・このような人を付ける手立てができれば、ここにある課題も解決できるというのが、C班のまとめだ。

D班（小学校教諭 6人）

現状課題

- ・子どもに関する課題は、人間関係の固定化や多様な意見があまり出てこないこと
- ・人数が少なくクラス遊びができない
- ・家庭に関する課題として、孤立している保護者も増えている。
- ・職員の課題では、仕事の量が多くなってくる。
- ・人数的なところからくる負担。
- ・職員のスキルアップや職員どうしのつながりがなかなか持ちにくいという課題があがった。

解決できること/できないこと/手立て

- ・多様な考え方を持てないとか環境の変化に弱いという子どもの課題は、ICT を活用することによって解決の方向に行くのではないか。
- ・なんとか交流も図れるのではないかと考えたが、やはり職員の負担というものがでてくる。なかなか根本的な解決に至らないのではないかと思う。
- ・ただ、解決策は難しいが、いろんな見直しをすることによって出来るのではということもある。
- ・例として、行事の見直しであるとか、校務分掌の見直しであるとか
- ・先ほどから話がでていろいろの専門家、それも常時で配置する必要がある。
- ・私も今日、出張でこの場に出てきたが、自習計画がなかなか難しく、今日は学校が本当に手薄になっている。そういうことから考えると、やはり職員の数っていうのが大事だと思う。
- ・行事の見直しのことでは、行事が増えるなら、その一方で減らしてほしいという声もあがっている。地域とのつながりで、いろんな活動をすることが多いが、そういったことがたくさんあるのはいいことで、子どもたちにもプラスになるのだが、それも増やしすぎると、なかなか難しくなってくるので、減らしてほしいという意見もある。
- ・まとめると小小連携で解決を図るのは難しい。
- ・やはり統合をという意見が出てきた。その方向で考えるべき。

E班（小学校教諭 6人）

現状課題

- ・他の班でも出ていたが、人間関係の固定化
- ・子どもだけでなく親同士の間関係が大変になっている。
- ・学習指導について多様な考えに触れにくい、深い学びができにくい。
- ・体育ではゲーム的なものであれば出来ない学習も出てくる。
- ・子どもの成長の部分でも折れやすい、競争心が育ちにくい等の課題がある。
- ・教職員についても他の班と同様だが、若手の人材育成の面で小規模校のしんどさ
- ・業務過多、人手不足、生徒指導上の問題に十分対応できない。

解決できること/できないこと/手立て

- ・小小連携することで、どのような解決ができるのか、期待できる点があるのかということだが、難しいという意見が多かったのだが、考えてみた。
- ・ICTの活用が必須になる。学習に関して、多様な考えについてはICTを活用し、ある程度は知ることにはできるだろう。ただ、そこから本当の深い学びに持っていくことができるかどうか。それを考えると現状では難しい。これについては全国様々な実践例があれば、それを手立てとして検証していくことは考えられる。
- ・小小連携の方法としては、例えばバスで移動してその日は一日そこで過ごす。週1日、週2日になるかわからないが、そういう過ごし方ができるのであれば、多少は地域性を活かした交流ができるとか、人数に制限のある学習ができるようになるとか、他校区の公共施設を利用した学習ができるとかは可能になってくるだろう。
- ・教職員の方に目を向けると、小小連携をすることで、他の教育指導に触れる機会が増える。人材育成の面で、ある程度学びを得ていくことができる。
- ・研修を共有する。例えば、外部講師、外部リソースを活用した研修を行うときも、そういう外部との折衝する際も小小連携することで負担は減っていくことはあるかもしれない。しかし、教職員の課題として、2クラスあれば隣の先輩の指導を受けられるような環境と、交流による単発的な学びの機会とでは、代替えできるものにはならない。2クラスある環境とは違い、なかなか小小連携では解決できない。
- ・代りになる手立てというのは班の中では出なかった。
- ・業務過多も小小連携では解決できない点だと意見が出たが、やれることとして、朝学をやめて、授業をもっと前に上げて、放課後に授業の準備等にかかる時間に使うとか、教科書の扱いも網羅的にやると時間がなくなり、厳しくなっていく。本質的なところをしっかりと押さえながらやっていく。
- ・合科、総合、STEAMを地域とともに学びをいっしょにやっていくことで、各教科の時間を減らしていく工夫がいる。教科担任も小学校でもう少し取り入れて教材研究の時間を減らす等の工夫はいくらかできる。
- ・人間関係もなかなか小小連携では解決しにくいだが、ICTとか例えばクラスルームを活用して、連携している学校の子どもたちと共同で書き込めるような普段からも交流できる場をつくっていく。
- ・ICTに関しては各校で格差が大きい。ICTの指導ができる先生を各校に均等に配置してほしい。どこの学校でもICTが進んでいくということも大事なことだと話をした。

F 班（小学校教諭 6 人）

現状課題

- ・他の班と同じ課題が出ていたので、違うところだけを言う。

解決できること/できないこと/手立て

- ・課題を解決するには直接、遊んだり、学習したりするのが大事だ。
- ・先ほども 1 日交流の話があったが、もっと大幅に増やして、例えばバスケットボールやサッカーが体育でできないとなれば、1 週間なり、2 週間なり、その単元をその学校にバスで行って学習をする。その間、その学年の担任は二人になるので、少人数に分けて学習もできる。子どもも一緒にできるので、効果的にいろんな問題が解決するのではと考えた。そのときに学校が使えない場合は、公民館を活用したりもできる。
- ・個々のニーズに応えるということで、学校選択制がある。大きな学校に行って、揉まれたいというときは宇仁校区に住んでいるけれども北条小に行けるということも考えられる。職員の育成については、学園構想で、能力のある沢山の先生がいるので、そこで共同研究をすることによって若手教師の育成ができる。先ほどのように 2 週間、他校に行って同じ学年の先生と一っしょに学習をすることで若手教師もいろいろ学べることができる。さらに教師の負担軽減ということでは、学校を越えた教科担任制もできると考える。

G案（中学校教諭5人）

現状課題

- ・現状の課題として小学校と同じこともたくさん出た。
- ・小さなコミュニティだと人間関係の多様性が薄れるとか競争心、向上心が育ちにくいなどの課題がある。
- ・中学校ならではの課題として、部活動の1校当たりの数が少なくなる。活発な部活運営が難しい。
- ・教職員についても小学校と同じで校務分掌の負担が大きい。
- ・教職員の年齢構成もいびつになっている。
- ・中学校では免許外の指導が小規模になってくると出てくる。
- ・部活動の顧問が一人体制になってしまう。
- ・3学年の教科を一人の教師が持たないといけないということで、テストの作成とか成績処理とか何かと負担が大きい。

解決できること/できないこと/手立て

- ・統合することによって生徒の競争心、向上心が育つこととか、部活動も活発化することも解決する。
- ・一人当たりの校務分掌も負担が減る。
- ・解決できないこととして、一番多く出たのは中一ギャップがこれまで以上に大きくなるのではないかということ。そのことに対する手立てとしては連携しかない。
- ・小小連携を小学校のうちからとっていく。小と中の連携も密にとっていく。そのような手立てが考えられるが、そうすれば小学校側の負担もともなってくるので、究極は小学校も統合するという意見となった。
- ・教師の校務分掌の負担も軽くなるが、1学級あたりの生徒数が変わらないと、担任の負担は変わらないと思う。
- ・校区が広がることで家庭訪問はどうするかとか、何かと担任の負担は大きい。
- ・これは市だけでは解決できないが、30人学級がやはり理想だ。
- ・統合になると実技教科の先生は余ってくる。そうするとこれから統合するまでの5年間の先生は臨時採用の先生になってくる。
- ・臨時の先生は毎年変わることになるので、今やっていることが継続してやれなくなる。
- ・今後統合するまでの5年間の不安がすごく大きいと思っている。

素案に対する課題

- ・最初の課題については、模造紙に晴れたが、その後は話し合いに熱が入ってしまって、後のところがないままになった。
- ・そもそもの話に入る段階で、今回は小中特支の校種も混ざって話合った。今回は中学校、小学校に分かれて、中学校の方を考えてくれと言われた。学校の話から入ったが、その時点で、突き詰めていくと、結局、小学校との兼ね合いが発生すると思う。中学校の学校統合を前提に話をするのはいいが、その前にある小中連携や加西 STEAM や 3C というのであれば、混ざった話になってくる。出てきた課題も混ざった話になっているので、その前提で話を聞いてほしい。
- ・先ほどから出ている中一ギャップ。誰もが、人数の小さいところよりも、大きなところに入って行く方が、大人であっても難しいと思う。小学校 11 校に対して、中学校 2 校であれば、不登校が増えるとか、ジャイアンのような存在の子がのび太君のような子たちにどう対応していくのか、いろんな課題をもっている家庭の生徒がいる中で、余計にその差が開くのではないかという懸念が一番出てくる。
- ・小中連携についても北条中で言えば 1 対 3 の連携をしているが、他の校区では 1 対 8 で小中連携をするのかという話になったときに、生徒もそうだが、教師の 1 対 8 の小中連携も大変だと思う。そこはサボれない。そこがあるから子どもたちを 9 年で考えることにつながる。

解決できること/できないこと/手立て

- ・小学校も統合の方に舵を切ってもらおう。あるいは小中一貫で、北播管内でもかなり進んでいるが、小学校 1 年生から 4 年生までで行事を持ち、小学校 5、6、中学校 1、2、3 でも行事を持つとか。やはり数が力を持つので、その手立てを打つことも必要ではないかと思う。
- ・統合すれば解決するとは思っていないが、11 対 2 で 5 年間を考えるとすごく難しい。
- ・小小連携と学校統合が前提の話というのは難しかった。
- ・A 班からも小学校の統合の話が出ており、小学校に統合の話をしてもらう方が子どもたちの学びや 3C とか STEAM 教育は難しいと思うが、そういうのはみんながいてこそだと思うので、その中で学びが継続できると思う。

I 班（中学校教諭 4 人）

素案に対する課題

- ・統合によって新たに出てくる課題を考えてみた。メリット、デメリット等。
- ・他の班からも出ていた中一ギャップ。北条中は 3 小 1 中だが、これが 8 小 1 中になるという怖さ。非常に恐ろしいと思う。
- ・中 1 ギャップと生徒指導がかなり増えるかな、不登校が増えるかなと思う。
- ・生徒指導は、生徒が成長する上で必要な指導はたくさんあるので、それが増えること自体はそんな問題ではないが、小規模の小学校からある程度の規模の中学校になるということの怖さがある。

解決できること/できないこと/手立て

- ・小学校を統廃合しましょうといってもできない事実の上で、それでもいいというか、それがメリットになることはないかと考えたが、中学校 3 中が 1 校になるということで、通学が大変になる。それについて意見が出たのが、教育委員会だけではどうにもならないが、例えばネッピー号を増便して、おじいちゃん、おばあちゃんも乗れる通学バスにしていくと地域とのつながりもできる。子どもたちも小学校のときから使えるようすれば、中学校になってもそのまま地域の方とともにバスに乗れる。中一ギャップも少しは減るのではないかと。地域とのつながりもつくれて、これはメリットにならないかと思う。
- ・これから部活動がどうなっていくかわからないが、大会はどうなっていくのか。
- ・あと支援学級はどうなるか、2 クラスだったのが今後は 6 クラス。そういったところも気になる。
- ・先ほどの話にもあったが、実技教科の先生が余ってくる。もちろん、負担は増えるが、その分、小学校の方に回って、小中一貫、小中連携をそこで推し進めることができるのではないかと。それによってメリットも出てくるのではないかと。
- ・北条中の中でも北条小、北条東小、富田小とそれぞれ文化が違う。この違う文化の 3 小、あるいは 8 小の子どもが集まっていくというのは、いろんなところで難しさがあると思う。素案の中に「郷土を愛する」とあるが、この郷土とは、いろいろ解釈ができるが、加西市を一つの郷土として捉えて、全員で頑張っていけたら、いろんな課題はあるとしても、みんなで乗り越えていけるのではないかと思う。